

参加学生の感想(事後アンケートから抜粋・一部編集)

<ul style="list-style-type: none">● 「福岡市職員の仕事に興味がある」「ワーケーションとは実際にどのようなものなのか知りたい」といった思いで応募しました。● ワーケーションのプログラム作成に伴う調査や企画で他の学生たちと意見交換することによって初めて気づいた福岡市西エリアや九大の強みが沢山ありました。● 唐泊ビレッジでの SDGsワークショップではカードゲームのような形式で SDGsについて考えました。「お金」「時間」「目標」という3つの要素のバランスをとることの難しさなどを体感することができました。● 何よりも大きな刺激となったのは他の3人の学生の方々です。キャリアプランをしっかりと考えていたり、プレゼンテーションや情報収集に慣れている3人と過ごして、自分も大学在学中に何か「自分の強み」として胸を張って言えるようなものを作りたいと強く思いました。
<ul style="list-style-type: none">● プログラム自体は物凄く楽しいもので、学生としては CureApp さんのようなゴリゴリのスタートアップ企業とご一緒できたことは非常に大きな経験だった● ワーケーションに来る目的として「その地域の課題を探りたい」や「その地域の人とコネクションを作りたい」といった企業の本音の部分をしっかりくみ取ったうえで、それ以外の地域の良さを売り出していくことが大切なのだと感じた
<ul style="list-style-type: none">● ワーケーションプログラム開発過程においては、企画を生み出す際、想像以上にリサーチ力であったり独自性を見つける力が求められるということを感じていた。● CureApp の方と CureAppHT の普及について考えた際には、社員の方と、できれば実現可能な案を作りたいという話をして、本当に実現する案を作れたことでワーケーション自体の達成感が高まった。● 私は社会人の方と関わったり、新しいビジネスの展開ということに興味を持ってプログラムに参加したが、BtoC、BtoBtoC という各ビジネスの魅力を伝えるということの難しさを知ることができた。何が正解か、何を求められているのか考えることは難しいが、相手のことをよく知って戦略を考えることは楽しい。
<ul style="list-style-type: none">● ワーケーションプログラムに参加するにあたり、期待していた学びとして①福岡市のプロジェクトに参加することで、行政の仕事を体験すること、②プログラムを通じて西区の魅力を見出すこと、③普段の大学生活では関わらないような人との交流を通じて新たな発見をすることの3点があった。実際にプログラムを通じて、期待以上のものが得られたと思っている。● このワーケーションプログラムに参加することで、自分自身の価値観や視野を拡げることができたと感じている。特に、福岡市の取り組みや、CureApp とのワークショップを通じて仕事の解像度を高めることができたのは、自分にとって非常に貴重な経験であった。